

■高橋お伝 殺人犯。金奪うため殺人し話題沸騰、最後の斬首刑となった。

たかはしおでん

国定忠治磔・1850＝ 上野国利根郡沼田下牧村の農家高橋勘左衛門・きのの娘に生まれる(沼田藩家老と女中の娘とも)。

ペリー来航・1853＝ 3歳：

幼時に父母が離婚したので、伯父の高橋九右衛門の養女となる。

安政の大獄・1859＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝10歳：

奔放な性格で男関係が絶えなかったという。

8月18日政変 1863＝13歳：同村の宮下要次郎を婿に迎えたが、

薩摩藩士密航1865＝15歳：2年ほどで離婚。造酒業の星野家に奉公に出る。

大政奉還・・1867＝17歳：2度目の婿養子高橋波之助を迎えた。今度は仲むつまじく暮したが、

明治維新・・1868＝18歳：

戊辰戦争終・1869＝19歳：波之助がハンセン病にかかり、看病で田畑も質入れして、生活は荒れ、2人で博打に興じるようになる。

廃藩置県・・1871＝21歳：借金で村にいられなくなり、東京に出て、横浜に移る。お伝は体を売って生活費と波之助の治療費を得ていた。この頃お伝はヘボンが横浜に開いた診療所を訪ねたといわれる。

明治6年政変 1873＝23歳：

しかし波之助は死去。のち群馬県富岡の生糸商小沢伊兵衛に囲われ、東京神田仲町に住んだ。そのうち姿をくらまして小川市太郎と同棲。生活力のない市太郎を養うため、**金策に迫られて再び売春をするようになった。そうした客の1人に古着商後藤吉蔵がいた。**

三つの内乱・1876＝26歳：***吉蔵を蔵前の丸竹旅館に連れこみ、殺害して金品を奪った。逮捕されたのは犯行後14日目。東京裁判所での審問に対してお伝は殺意を否認し、吉蔵は姉の敵で、その仇討ちをしたなどと主張、新聞も興味本位に書きたてたため、お伝の名は全国に広まった。**

西南戦争・・1877＝27歳：

琉球処分・・1879＝29歳：

***市ヶ谷監獄で処刑され、千住回向院に埋葬された。斬首刑の最後の刑死人である。**

のち仮名垣魯文、河竹黙阿弥らに脚色されて何人もの男を殺した毒婦と喧伝される。お伝の三回忌に魯文らは谷中天王寺に墓を建てた。